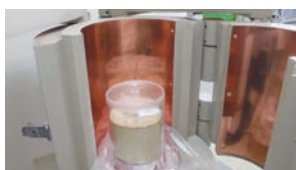


生協では2011年度より、食事に含まれる放射性物質の量について継続して調査しています。原発事故の影響を受けた地域を中心に、全国を対象にしています。組合員さんから、実際の食事、使用した食材の入手先に関する情報を集い、さらに食事に対する意識アンケート調査を行っています。

食事摂取量調査は、日本全国の生協で取り組んでいる調査です。規模が大きいため、海外の専門誌に取り上げられてもいます。コープふくしまや、日本生協連のホームページにも内容が詳

* 2011年度の調査から対象地域は変わりません。東北、北関東を中心に実施数を2011年度250サンプル、2012年度671サンプル、2013年度435サンプルとなっています

* 参考値としてヨウ素131も測定しましたが、すべて不検出でした



コープふくしまHP <http://www.fukushima.coop/>
日本生協連HP放射性物質関連 <http://jccu.coop/topics/radiation/>

- 組合員数 224,672名 計画比99.4% (加入586名)
出資金 39億1,636万円 一人当たり出資金17,431円

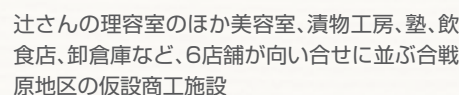
- ⑤ 1月23日可児市と「可児市地域見守り協力活動」の協定を締結した事が確認されました。可児市との協定締結により、16市町村・団体との協定締結、通報窓口との連携になりました。



廃業か再建か。仮設商店街の商

店も大勢の顧客を失いました。仮設商工施設への入店後は、隣接する仮設住宅からの来店客が増えました。が、新市街地へ移転すれば

それもまた変わります。固定客相手の商いでありながら、顧客はい



かりますね」。

震災後の住民離散で、辻さんの

再建は決してゴールではなく、ようやくゼロ地点に立ったようなものの。1年後、2年後の本格再建で再び、経営の試練と向き合うことになるのです。

が続いています。「新市街地も、以前住んでいた地区とは大きく環境が変わるので不安です」。

店も顧客も失
い、マイナスから
出発した商店主た
ちにとって、本格

なるのです。

2015年1月23日、可児市と地域見守り協力活動の協定を締結し、岐阜県内で16市町村：団体との協定締結、通報窓口と連携しました。

コープ見守りなっとは、コープぎふの職員が、職務中に新聞などがたまっている「同じ洗濯物が干したままになっている」「窓ガラスが割れている」といった、いつもと違う様子を発見した場合、連携している地域の自治体や団体に連絡し、状況の確認と支援につなげるものです。



「見守りの事例」いつもは玄関が開いていて、おばあさんに商品を受取って頂いているのですが…。チャイムを押しても応答なし。玄関を開けて声をかけたところ、倒れているおばあさんを発見！

【対応】受け答えはしっかりしてみえたので、担当者は支所へ連絡。支所から地域の窓口へ連絡。すぐに救急車を要請し、救急車が来るまで付き添いました。